

令和5年1月13日(金)

公的統計マイクロデータ研究コンソーシアム
第11回評議会 議事録

- 1 日時：令和4年12月8日(木) 9時30分～12時00分
- 2 場所：Zoom ミーティングによるオンライン対面開催
- 3 出席者： 藤井評議員(議長) 會田評議員 岡部評議員 川崎評議員 北村評議員
杉山評議員 南評議員 山下評議員
(オブザーバー) 伊藤運営委員会副委員長 伊原委員 高部委員
大原氏 仙田氏 竹村氏 椿氏 岡本運営委員(事務局担当)
- 4 議事内容
 - 成立要件の確認（開会と定足数の確認）

事務局より成立要件について説明し、評議会規則第7条の規定に基づき、対面による評議会の成立要件を満たしていることを確認した。
 - 前回議事録の確認
資料2に沿って、第9回議事録の内容を確認した。修正等がある場合には事務局に連絡することとした。
 - 議題1：評議員の推薦について
資料3・4に沿って、評議員の推薦について説明があり、資料4の通り承認した。また、今年度末で評議員退任となる2名に対し、これまでの尽力に際し謝意があった。
 - 議題2：運営委員の変更について
資料5・6に沿って、運営委員の変更について説明があった。今回は交代等があり、資料6の通り承認した。また他の運営委員関しての再任を承認した。
 - 議案3：第7事業年度活動報告
資料7～10に沿って、第7事業年度活動報告について説明があった。案のとおり承認した。
 - 議案4：第8事業年度活動計画
資料11に沿って、第8事業年度活動計画について説明があった。来年度の新しい取り組みとして、「公的統計マイクロデータのためのチュートリアル・講習会」の開催案やメールマガジン配信などが提示され、案のとおり承認した。
 - ・チュートリアルでは、総務省統計局に勤務していた際に受けた質問などをQ&Aで話したり、ワークショップでは独特な変数の付け方などを説明したり、といったマイクロデータの利活用のハードルを下げるような内容を幅広い方々に伝えたいと考えている、との説明が

あった。

- ・チュートリアル・講習会の受講対象者レベルについて質問があった。
 - 基本的には初心者を想定しているが、他分野のデータ分析を実施している方々に公的統計の形式になじんでもらうということも想定している。参加者の状況によって内容を変更することも考えている、との回答があった。
- ・NewsLetter についてコンテンツの内容については、外部の方の意見も入れているのかという質問があった。
 - 現状は事務局で案を考え運営委員会で議論する形で対応している、との回答があった。
 - 将来的にはその他一般の方の意見も交えて構成などを考えると良いのではないか、という意見があった。
 - 今後は体制についても考えていきたい、との回答があった。

■ 議案 5：コンソーシアム会員の認定について

資料 13・14 の会員認定内規に沿って、会員認定についての説明があった。資料 12(画面投影)に沿って審議し、認定審議対象者全員の入会を承認した。

- ・審議の準備を進めている最中にも申込があり、また改めて評議会での書面審議をお願いすることになる、との報告があった。

5 報告事項

■ 報告事項 1：公的統計マイクロデータ研究コンソーシアムシンポジウムについて

- ・資料 15 に沿って、今年度のシンポジウムと NewsLetter についての報告があった。
- ・NewsLetter は年に何回発行しているのか、という質問があった
 - 10 月と 3 月の年 2 回の発行、との回答があった。
- ・NewsLetter の特集記事について何か希望があれば、事務局へ連絡して欲しい、との依頼があった。

■ 報告事項 2：公的統計マイクロデータのためのチュートリアル講習会について

資料 16 に沿って、公的統計マイクロデータのためのチュートリアル・講習会に関する説明があった。第 1 回目となる今開催では、主に若手研究者や大学院生を対象とし、1 月に入門的な公的統計マイクロデータの概要や活用事例などの講義をオンラインで実施し、3 月に擬似マイクロデータを利用した R による実践的なワークショップを対面で行う予定、との報告があった。

- ・募集についてはどのように行う予定か、という質問があった。
 - シンポジウムの広報のように学会のメーリングリストを流し、状況に応じて個別に学生に声をかけることも考えている。ただ、初めての試みとなるため(若手研究者や大学院生

といった)ターゲット層にアクセスできるかは未知数である、との回答があった。

→オンライン形式の場合、全国から参加可能なので、広く広報する良いのではないかと考える、との意見があった。

■ 報告事項 3：アンケートウェブサイト公開について

アンケートウェブサイト公開とチュートリアル動画公開についてコンソーシアムウェブサイトを表示して説明があった。

・動画はダウンロードできるのか、との質問があった。

→YouTube の機能に従うことになるため、基本的にはできない、との回答があった。

・一般用アンケートと会員用アンケートの結果に何か違いはあるか、との質問があった。

→回答数が少ないのもあり、特に有意な違いはない、との回答があった。

・アンケート実施は定期的に実施するのか、という質問があった。

→まだ詳細は決めていないが、今後の実施も検討したい、との回答があった。

6 意見交換

・統計データ利活用センターとコンソーシアムとはどのような関わりがあるか、質問があった。

→現状では利活用センターには、シンポジウムでのオンサイト施設運営に関するチュートリアルや1月のワークショップでも講演いただいている、との回答があった。

・統計データ利活用センターはオンサイト設置施設のケアや設置施設拡大を進めており、コンソーシアムではオンサイト利用者研究者のサポートを行うというイメージがある。ダブルトラックでアピールしていくのは重要、との意見があった。

・個人研究者への働きかけは、コンソーシアムの担当だと考える。社会学会や家族学会といった(統計関連の学会以外の)他分野の学会などにも出向いて講演をするといったことを考えてもよいのではないか、という意見があった。

→潜在的な公的マイクロデータのユーザーはいると思うので、他分野の学会で企画セッションを実施することなども考えている、との回答があった。

→社会学会などの他分野のキーパーソンとなる人に運営委員を引き受けてもらおうと公的マイクロデータの普及に貢献してもらえるのではないか、との意見があった。

→教育社会学会で企画セッションを実施した、という前例がある。また規模的に大きな公衆衛生学会でも宣伝をしたことがある。教育社会学会の先生方にはマイクロデータの活用に非常に興味を持っていただいた。それらの学会で企画セッションをするというのは非常に有効だと思う、との意見があった。

→情報・システム研究機構のデータサイエンス共同利用基盤施設では、研究コーディネーターを置いて色々な学会に出向いてブースを置き、広報活動をしている。このようなシ

システムを利用してユーザーを増やす方向を進めても良いのではないか、という意見があった。

→データサイエンス共同利用基盤施設などとの連携も積極的に考えていきたい、との回答があった。

- ・今年度のシンポジウムはこれからマイクロデータを使おうという研究者にとってはとても参考になる内容だったかと思う。その一方で、日本の政府のマイクロデータは使いにくいとの意見が新聞に書かれていた。それには若干の意見の食い違いもあるかと思うので、それを避けるためにも今回のような情報発信は非常に重要だと思う。また不満の持つ方にもぜひコンソーシアムのような所に参加してもらおうと細かな問題点も見えてくるので、ぜひ活動を広げて行って欲しい、との意見があった。

→今回のシンポジウムでは、施設の管理者や利用者側からの要望やどのようにすれば制度が改善できるかの提言まであり、コンソーシアムが学側の意見を集約して官側へ伝えるという役割を持ち始めたという印象を持った。今後も活動を通じてこのような場があるということを経験していきたい、という回答があった。

- ・本日コンソーシアム入会を承認した方々をみても、統計学以外にも様々な分野の方が興味を持っているように感じる。コンソーシアムのウェブサイトには会員のバックグラウンド(会員の属性)を掲載すると、「自分に関係ない」と思っていた方々が関心をもってくれるのではないか、という意見があった。

→属性情報の公開についてはぜひ検討したい、との回答があった。

- ・厚生労働省が扱うがん登録のマイクロデータや総務省が扱う公的統計マイクロデータの相互的乗り入れがまだ難しい状況。これからオープンデータサイエンスが盛んになると予想される段階で、公的なマイクロデータの研究への利活用が3つか4つ平行に進んでいるが、本コンソーシアムから機微なデータのお互いの使い方や統括的な使いかたなどの情報発信をしていただければ、との意見があった。

- ・このコンソーシアムが、公的統計マイクロデータはもとより公的データ自体の研究が進むような役割を担えるのではないかと思う、との意見があった。

以上